

洞

爺湖町として初の開催となる洞爺村国際彫刻ビエンナーレ2007の第1次審査会が、5月25日に行なわれ、応募総数46カ国450点の作品の中から審査の結果26カ国60点(国内24点、国外36点)の作品が選ばれました。

第1次審査会は、東京都内の千代田放送会館を会場にして、作品を写したスライドにより審査。札幌芸術の森美術館館長の奥岡茂雄氏を審査員長とする5氏が審査員を務め、慎重な審査の結果60点を選出しました。

第1次審査会を通過した作品の実物により行う第2次審査会は、7月25日に洞爺総合センターにて開催し、大賞作品などが決定します。

また、町民のみなさんの投票により決定する「洞爺湖賞」の投票は、7月31日～8月5日ま

で洞爺総合センターで行います。入賞作品展覧会は、9月22日～10月21日まで洞爺総合センターにて開催。多くのみなさんに喜んで鑑賞して頂けるよう準備を進めていきますので、是非見に来てください。

洞爺村国際彫刻 ビエンナーレ2007 第1次審査終了

洞爺湖賞の投票は7月31日—8月5日



スライドで審査をする審査委員

第2次審査会や洞爺湖賞町民投票、展覧会、各種サブイベントなどについては、町民向けビエンナーレ広報紙《ビエンナーレ通信》にてみなさんにご案内しますので、そちらの方も見てください。

洞爺湖周囲の 三十三観音清掃 JCと保存会で実施

6月24日(日)、洞爺青年会議所(JC・大久保正人理事長)と三十三観音保存会(代表

国分武司)が、毎年実施している洞爺湖の周囲にある三十三観音の清掃に取り組みました。

この観音は、明治38年6月15日、壮瞥村4代戸長、志賀兼治らの発願により、西国三十三ヶ寺の霊場(近畿地方を中心に点在している観音さま)にちなんで、明治39年2月までの1年

がかりで建立されたもので、当時の入植者の通行安全や家内守護、豊作などの様々な祈願だけではなく、洞爺湖を囲む洞爺湖町、壮瞥町の2町にまたがる観光名所として、全国からの巡礼者にも風光明媚で愛されてきました。



観音の清掃をする皆さん

た。当日は、13人が参加し、一番観音から三十三観音まで、1日かけて観音像の周りの清掃や草刈、ペンキ塗などを、行いました。

鹿島さん彩書作品「天馬」寄贈

の度青森県在住の彩書家、

こ 手間本北栄氏の作品「天馬」(10号)が、鹿島良三郎さん(泉区)から洞爺湖町に寄贈されました。

鹿島さんは、手間本氏といこの関係で、「お世話になってる洞爺湖町の合併1周年記念に贈りたい」と依頼し、製作さ

れたものです。

同氏は、スペインバルセロナ国際サロン栄誉賞・金メダルなど国際的な賞を多数受賞している彩書家。

「天馬」とは、空を飛ぶ馬のことですが、「洞爺湖町が力強く羽ばたいてほしい」との意味合いが込められています。



天馬を渡す鹿島さん